

2010 年，2011 年に続いて 3 度目の小豆島オリーブマラソンに出場した。

マラソンの楽しみの 1 つに，いつものマラソン仲間と一緒に食事をするところにある。今回も山口の兼清夫妻と同じホテルに泊まることにしている。

このため前日の 25 日，高松港 14 時 48 分発の草壁行きフェリーで小豆島に渡った。

これまで気がつかなかったが，高松港に綺麗な模様のある 2 本の柱が立っていた。ネットで調べると「瀬戸内国際芸術祭 2010」のときに，大巻伸嗣氏(1971 年岐阜県生まれ)が出展した，「リミナル エア コア / Liminal Air-core」という作品。



高松港に立っている「リミナル エア コア」



ホテルの部屋から眺めた瀬戸内海



1600 メートルの地下からくみ出している天然温泉に入った後，19 時より地下のレストランで兼清夫妻と一緒に食事。

バイキング方式であるが，料理は予想以上に美味しかった。オリーブで養殖した「オリーブハマチ」のしゃぶしゃぶ，巻き貝の一種である「バイ」を煮たものは最高。



ホテル「ベイリゾート小豆島」のマスコットのぬいぐるみが，明日のランナーを激励に現れた。



ホテルでランニングウェアに着替え、8時40分にホテルのマイクロバスでマラソン会場に向かう。



今年は、家内と揃いのランニングウェア。ただし、私は毎年同じもの。



10キロロードレースは、10時14分にこのエア・アーチからスタートする。



兼清英則・芳子夫妻。



オーリーブはギリシャの樹。ギリシャの神殿の前で、小豆島名物の佃煮を煮る鍋を用いた聖火台に地元の女子生徒が聖火を点灯。

国旗掲揚と君が代斉唱で開会式が始まった。



大会長である小豆島町の塩田幸雄町長による開会の挨拶。その後で、36回連続出場している香川県の福家茂氏が紹介された。御年90歳。54歳の時から出場していることになる。

ちなみに出場ランナーの最高齢者は、高知県の青木壯太郎氏で91歳。

本当に尊敬させられる。





御年90歳の福家茂氏。耳が遠いようであるが、今年も5キロロードレースに出場される。若い。この大会には北は北海道、南は鹿児島から5627名が参加している。高知県からは195名が参加。ハーフ3361名、10キロ574名、5キロ692名。



選手宣誓した二人に地元の児童から花束贈呈。



蔵所俊文さんと清水春菜さんによる選手宣誓。二人のTシャツの胸には「茨木市」と書かれていた。

この大会には、小豆島町と友好姉妹都市の盟約を結んでいる大阪府茨木市から、59名が参加されている。選手宣誓をされたのは、そのうちのお二人。

茨木市の城主であった片桐且元が小豆島の検地をしたり、大阪城築城の際、小豆島から石を運んだこと、また、小説「二十四の瞳」の作者・壺井栄と川端康成という文学面での共通性などが縁となり、昭和63年に姉妹都市となっている。



ゴミ分別戦隊エコレンジャーによるゴミ処理のユーモアな説明。



ゴールしてから、5キロに出場した渡辺和子さん(松山市)、村上順一・志津子夫妻(神戸市)と記念撮影。渡部徹さんはハーフに出場したため、まだゴールしていない。

私は10キロを1時間17分19秒。1574人中1190位。60歳代では122人中94位。一昨年の第36回の1時間7分51秒を大幅に上回った。



家内は1時間18分10秒。一昨年の1時間8分6秒を大幅に超過。

一昨年までは日々進化していたが、最近では夫婦とも退化を抑えるのが精一杯になっている。

完走証、弁当をいただき、オーリーブマラソン名物の小豆島ソーメンをご馳走になってから徒歩でホテルに帰る。会場からホテルまで約1.6km。

会場の前は12時30分まで通行止めになっている。



ホテルに帰る途中、地元高校生による和太鼓による応援隊に会う。和太鼓応援隊は1.5km地点、3km地点、4.5km地点の3箇所にいる。気が折れそうになったとき、和太鼓の音が聞こえると気持ちを奮い立たせてくれる。



小豆島オーリーブマラソンが良いのは、地元の人々による沿道の応援と、沿道の企業の方による補給水のサービス。沿道の人々との応援には随分と元気もらった。



左側車線を走っているのはハーフのランナー。この道路は12時30分まで通行止めになっている。



宿泊したホテル・ベイリゾート小豆島は、会場から約1.6kmの距離にある。その間に、救急車に3度であった。いずれも倒れたランナーを病院に搬送するため。熱中症で意識不明になるランナーが多いようである。

私たちは何度も立ち止まって沿道の水のサービスを受けたので、元気にゴールすることができた。

この後、ホテルで温泉に入り、草壁港14時30分発のフェリーで帰る。